科目名 在宅看護論の概論

授業科目の区分 統合分野 履修対象 2年次 前期 単位 30時間

担当講師 専任教師 1名 非常勤講師 3名

授業概要

1. 在宅看護の特徴を学ぶ

2. 住み慣れた、生活の場において看護を受ける療養者とその家族を理解する。

3. 在宅療養者とその家族の権利擁護や生活を支える制度について学ぶ。

授業計画

授業	計画		
口口	項目	内容	方法
1	在宅看護の概念	地域療養を支える在宅看護の役割・機能	講義
2		在宅看護の背景・変遷と課題	
3		在宅看護の基盤	
4		在宅看護の倫理と基本理念	GW 発表
5		在宅療養者と家族の権利を守るためには	GW 発表
		「概論で学んだ状況を地域で確認してレポートにまとめる」	レポート
6	在宅療養を支える制度	日本の医療 福祉の変遷	講義
7		介護保険について	
8	地域包括ケアシステムにおける在宅看護	在宅ケアとケアマネジメント 在宅ケアにおける関係機関・関係職種の連携・協働 地域包括ケアシステムと在宅ケア ケアプラン作成	GW 発表
9	在宅療養を支える看護	訪問看護の特徴 在宅ケアを支える訪問看護ステーション	講義
		訪問看護の実践	
5	在宅療養者と家族の支援	在宅療養者と家族の支援	
		在宅看護と家族	
13	在宅看護における安全と健康危機管理	在宅ケアと危機管理	
14	在宅療養を支える制度	障害者の在宅療養を支える制度と社会資源 在宅難病療養者を支える制度と社会資源	講義
15		子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源	

発展科目: 在宅看護を学ぶ上で基礎になる考え方や社会資源について学ぶ

テキスト: ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版

ナーシング・グラフィカ在宅看護論② 在宅療養を支える技術

参考図書:系統看護学講座 老年看護学 医学書院

成績評価:終講時試験(80)、課題レポートの内容(10)、授業への参加度(10)を考慮する。

2021. 3改訂

科目名 在宅における生活支援 授業科目の区分 統合分野 在宅看護論

履修対象 2年次後期 単位 1単位 30時間 担当講師 専任教師 2名 他

授業概要

在宅療養者と家族の生活や価値観を尊重した上で、生活を支援することを学ぶ。在宅療養者と家族の生活行動についてアセスメントする能力を身につけ、自立を目指した援助が出来る基礎的能力を身につける。

授業計画

授業	計画		
口	項目	内容	方法
1	在宅における生活支援 とは 高齢者の健康と安全	健康な高齢者をめざして 高齢期の理解 高齢者に起こりやすい事故の予防と手当、急病への 対応	赤十字健康生活 支援講習の内容 を含む 講義 演習
\$	地域における支援活動	支援活動について 地域における高齢者の理解 地域包括ケアシステム 支援活動にあたって ともに楽しいひとときを 外出、散歩に誘いましょう 地域を支えるネットワーク	[快日
10	日常生活における介護	介護にあたって 地域包括支援センターの業務 居室の環境 移動 車椅子への移動動作 食事 排泄 着替え 清潔 認知症高齢者への対応 人生のエンディングを考える 介護者の健康管理 癒しのハンドケア	
11	事例で考えてみよう	脳卒中後遺症のある患者 安全な環境とは 安楽な身体の清潔の援助とは 安全な移動方法とは 食事について	グループワーク 事例で考える
13	訪問看護に行こう	実際の援助場面を設定し、演習をする どのような援助が必要か考えてみよう。 どのような物品が必要か考えてみよう。 援助を行ってみよう。	演習
14 15	まとめ	まとめ 発表	グループワーク 発表

発展科目: 在宅看護論実習 他

テキスト: ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版

ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支える技術 メディカ出版

赤十字健康生活支援講習の教本

参考図書: 系統看護学講座 老年看護学、老年看護病態・疾患論 医学書院

系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院

成績評価: 終講時試験

講義・演習・グループワークへの参加度

2021.3 改訂

科目名 在宅における看護技術 授業科目の区分 統合分野 在宅看護論

履修対象2年次前期単位1単位30時間担当講師専任教師 2名

授業概要

1. 在宅看護で必要な生活を整える技術について学ぶ。
2. 医学的管理を必要とする看護技術について学ぶ。

授業計画

口	項目	内容	方法
1	在宅看護の特徴	看護師のアセスメント能力	講義
2	食の援助	「食べる」ことに関するアセスメント	演習
3	経口摂取できない場合の 栄養摂取について	経管栄養法 PEG 在宅中心静脈栄養法(HPN)について	講義
4		経管栄養法 PEG 在宅中心静脈栄養法(HPN)について	演習
5 · 6		アルフレッサ講義・演習	講義 演習
7	排泄の援助	排泄の生理 摘便	講義
8		摘便の方法	演習
9		透析療法時の看護 血液透析・腹膜透析の原理	
10	呼吸の援助	呼吸のアセスメント 口腔内・気管内吸引	講義
11		気管切開 気管カニューレ 吸引	演習
12		フィリップスジャパン 在宅人工呼吸療法(HMV)について	講義 演習
13		帝人 在宅酸素療法(HOT)	講義 演習
14	在宅を支える災害対策	在宅療養における災害対策	GW
15	療養を支える看護技術とは	意義と目的 まとめ	講義

※ 都合により、講義の順序が前後する可能性があります。

発展科目: 在宅における看護技術を使って看護実践に結びつける

テキスト: ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版

ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 地域療養を支える技術 メディカ出版

成績評価:受講態度(講義・演習への参加度) 筆記試験

科目名 授業科目の区分 履修対象 在宅における看護実践 統合分野 在宅看護論 2年次後期

単位 1単位 15時間

担当講師

専任教師 2名 非常勤講師 1名 在宅看護に特徴的な事例を取り上げて、既習の在宅看護論の授業と関連させながら 授業概要

学ぶ。また演習を通して実践に近いかたちで学ぶ。

授業計画

回	月日	項目	内容	方法
1		在宅看護の対象者	シラバス確認 変更点説明	シラバス確認
		訪問看護の実際	訪問看護の対象(復習・想起)	講義 PPT
			地域包括ケアシステムにおけるセルフマネジメント力の向上とは	先駆的事業紹介
			ALSについての理解を深めるために	
			事前課題	G.Wと発表
			・映画を鑑賞しての感想・看護師としての支援方法	(グループ記録提出)
			・ALSに関連した記事・ブログを視聴内容の紹介・感想	
			本授業においてのグループワークの展開について	確認
			訪問看護展開事例(テキスト事例1~9より)選択	
2		難病ALSについて	難病とは・ALSについて理解を深める	事前課題発表
			・ALSに関連した記事・ブログを視聴内容の紹介・感想	
			・ALSの病態・治療・看護・在宅療養を継続していく	
			ために整えていくこと	
			訪問看護の実際について聞く	講義
			ホームホスピスの実際について聞く	講義
3		事例で考える	事例に基づき、訪問看護実習の様式1~4を作成する	G.W
3		ずりく与える	事例の構造図を作成する	G.W
			TVIVITAEMETTIAN)	
4		事例で考える	構造図・様式1~4について進捗状況を発表する	プレゼン
5		事例で考える	看護計画に沿った訪問看護のシナリオを作成する	G.W
			演習計画:吸引、経管栄養、コミュニケーションなど	
6		訪問看護の実践	実際の訪問看護を想定してロールプレイを実施する	ロールプレイ
			訪問目的に沿った訪問看護の実施	1-4G
7		訪問看護の実践	実際の訪問看護を想定してロールプレイを実施する	ロールプレイ
			訪問目的に沿った訪問看護の実施	5-8G
			評価項目と訪問看護として望ましい点・工夫する点も	評価表に沿って
			入力する。	日間が行行って
			7077 20	
8		振り返りとまとめ	自己評価・他者評価からの学び	講義·意見交換
			演習を通して学んだ訪問看護師として大切にしていくこと	
			まとめ(45分) 状況により延長	状況により分散
			演習を通して学んだこと・振り返り・意見交換	評価表に沿って
			評価項目と訪問看護として望ましい点・工夫する点も	評価し共有
			入力する。	
事後		提出物	各グループの構造図・様式1~4・シナリオ提出	月 日提出
課題			課題レポート「訪問看護演習を通して学んだこと」	月日提出

ALS関連の映画鑑賞「ギフトー僕が君に残せるもの-」「博士と彼女のセオリー」 映画を鑑賞しての感想と訪問看護師としてどのような支援ができると考えたか ALSに関連する記事・ブログ・動画を検索して視聴する。 ①検索・視聴したタイトルとその内容の要約と感想をまとめる。 事前課題:

ALSについてのまとめ

①ALSの病態

②症状出現に伴う医療・看護

③在宅療養を継続していくために整えていくこと(療養者・家族・療養を支援する人々)

発展科目:

②仕て派者を施配している。 在宅看護論実習他 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 地域療養を支える技術 メディカ出版 終講時試験(60%) 受講態度、GWへの参加度(20%)提出物の内容(20%)を加味する テキスト: 成績評価:

科目名 災害看護論

授業科目の区分 統合分野 履修対象 2年次前期・後期

単位 2単位 30時間(トレニングセンター:6時間の演習を含む)

担当講師 専任教師 2名 非常勤講師 1名

日本赤十字社兵庫県支部救護課職員、姫路赤十字病院社会課職員、学校教員

授業概要と目的 赤十字の理念である人道の具現化として赤十字災害救護活動への理解を深めることを目的と

する。また、講義で学んだ知識と共に救護技術の習得を目指し、災害救護実習を実施する。 災害救護訓練では、災害時に看護専門職の救護活動に必要な判断力と意思決定、基本的な

救護技術、心構えと態度、行動力を習得する。

授業計画

授兼計 同	項目	内容	方法
1	災害看護の基礎知識	1. 災害看護の定義と役割	講義
2		2. 災害看護の対象	#17·32
_		3. 災害看護の特徴と看護活動	
	赤十字と災害看護	1. 赤十字の理念と災害看護	
	N' 1 1 C/CLI-EIX	2. 赤十字災害看護の法的根拠	
		3. 赤十字救護班	
		1)救護班の編成と救護員の役割	
		2) 救護所の設営と運営・救護資機材	
3	災害とこころのケア	1. 被災者のこころのケア	講義
4	人 日 に こ う り り	2. 遺族のこころのケア	グループワーク
1		3. 被災救援者のこころのケア	
		4. 救援者のストレスとこころのケア	
5	災害サイクルに応じた	1. 災害サイクル別の看護	講義
6	活動現場別の災害看護	2. CSCATTTの考え方	演習
7		トリアージと応急処置	IA E
'		トリアージタグの取り扱い方	
		3. 災害看護活動の実際	
		1)被災病院の初動体制・傷病者受け入れ	
		2) 救護所の立ち上げと傷病者対応	
		3)避難所における健康と生活支援	
		4) 災害準備教育	
		4. 被災者特性に応じた災害看護の展開	
8	救護所での医療活動	1. 救護所の設営	グループワーク
O		①設営場所および救護所内のレイアウト	970 99 9
		②人員および救護資機材の配置	
		③役割想定	
9		2. 総合シミュレーション	演習
9 10		①メンバーの役割決定と連携	供白
10 11		②救護活動、応急処置の確認	
11			
12	災害救護訓練	③トリアージ・応急手当・搬送 1. 基礎行動訓練	演習
13	火舌牧護訓練 トレーニングセンター	1. 基礎1] 期訓練 2. 災害救護演習	(興百
	トレーーノクセンター	2. 火舌拟碳偶百	
14 15		デブリーフィング	ディスカッション
19		/ ノン / イイン	/ イハルツンヨン

発展科目: すべての科目の統合である。災害時のみならず、平時の看護活動に役立つ。

テキスト: 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院

成績評価:①課題レポート

②災害救護訓練(トレーニングセンター)、グループワークおよび演習参加状況

③学科試験

科目名 医療安全

授業科目の区分 統合分野 看護の統合と実践

履修対象2年次 後期単位1単位30時間

担当講師 専任教師 1名 非常勤講師 1名

授業概要 人間の尊厳と生命の安全を守る看護者としての責任を果たすためのリスクに関する

感性を高め、医療事故を未然に防ぐ基礎的能力を身につける。

授業計画

口	項目	内容	方法
1	1. 医療安全の意味と	1.医療安全を学ぶ意義	講義
	重要性	2.医療安全に関わる」動向	
		3.医療安全の対象	
		4.医療事故に関する基礎知識	
2	2. 看護職の法的規定と	1.看護職の法的規定	講義
3	医療安全	2.国の医療安全への取り組み	GW
	3. 医療安全の取り組み	3.看護職能団体の取り組み	
	4. 事故発生のメカニズム	4. 事故発生のメカニズム	
4	5. メタ認知とアサーティブ	1. メタ認知	講義
	コミュニケーション	1)自己モニタリング機能(知識・能力・認知活動)	
		2)自己コントロール機能 (方略選択・調節)	
		3)危険予知	
		2. アサーティブなコミュニケーション	
		(相手を不快にさせずに必要なことは発言する力)	
5	6. 患者・家族との協同と	1. 医療安全管理者の役割	講義
	安全文化の醸成	2. 全員参加の医療安全:安全文化の醸成	
6	7. 看護における医療事故と	1. 看護業務と事故発生要因	講義
7	安全対策	2. 医療事故の種類:その分析と対策	
8		(患者誤認予防、誤嚥、薬物遺残、皮膚障害、	
		医療器のトラブル、チューブ類のトラブルなど)	
9	8. 医療従事者の安全を	1. アナフィラキシーショック、医薬品への曝露など	講義
	脅かすリスクと対策	2. 患者、同僚および第三者による暴力、ハラスメント	
10	9. 医療事故発生時の対応	1. 初期対応の考え方と方法	講義
11		2. 紛争化の防止対策	
12			
13	10. 看護学生の実習と安全	1. 実習における事故の法的責任と補償	講義
		2. 実習中における事故予防及び事故発生時の 学生の対応	
		3. 実習における安全についての指導者の役割	
14	11. 事例から考えよう	インシデント・アクシデント分析方法	GW
15			

発展科目:各看護学実習

テキスト : ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 メディカ出版

成績評価:終講時テスト・参加度

授業科目の区分 統合分野 看護の統合と実践

履修対象3年次前期単位1単位15時間担当講師非常勤講師

授業概要 看護を提供するための資源(人的資源・物理的資源・財的資源)を有効利用し、

それを有効活用するための仕組みを理解する。看護師としての調整とリーダー

シップ及びマネジメントができる能力を養う。

事業計画

回数	時間	項目	内容	方法
1	2	看護とマネジメント	看護管理学 看護マネジメントの変遷等	講義
2	2	看護ケアと	マネジメントと看護職の機能 患者の権利と尊重 安全管理	講義
3	2	マネジメント	チーム医療 看護業務の実践	グループワーク
4	2	看護職のキャリア マネジメント	キャリア形成 タイムマネジメント ストレスマネジメント	講義
5	2	看護サービスの	組織目標達成のマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり 人材マネジメント	講義
6	2	マネジメント	施設・設備環境・情報マネジメント リスクマネジメント サービス評価	グループワーク
7	2	看護を取り巻く 諸制度	看護職にかかわる制度 医療制度 看護政策と制度	講義
8	1	マネジメントに必要な 知識と技術	組織とマネジメント リーダーシップとマネジメント 組織の調整	講義

発展科目: 看護学に関するすべての科目

テキスト等: 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院

成績評価: 終講時試験、レポート、出席状況

2021年2月改訂

科目名 統合技術演習

授業科目の区分 統合分野 看護の統合と実践

履修対象3年次後期単位1単位30時間担当講師専任教師3名

授業概容 臨床実践に近い状況下で総合的な判断・対応を体験することにより、卒後の看護

業務遂行のイメージができる。

臨床に近い状況下での演習を通して、3年間の学習で習得した知識・技術・態度 を統合し、対象に応じた看護を実践できる能力を養う。

1. 複雑な看護場面において多重課題に優先順位をつけ、自己の対応能力をアセスメントして、同僚(他者)の支援の必要性の有無を判断しながら対処することができる。

- 2. 臨床実践能力の構造の中の看護技術を支える要素について考える。 より対象理解を深めたアセスメントを行い、その場に必要な知識・技術を駆使して、安全・確実に看護を実践することができる。
- 3. 地域で過ごす対象に応じたケアマネジメントを考えることができる。
- 4. 演習やこれまでの学びを振り返り、自己の看護観や人道についての考えを深めることができる。

授業計画

]又未口	凹		
口	項目	内容	方法
1	導入·課題提示	統合技術演習の意義・目的 演習1:グループワーク 課題①技術演習 割り込み事例への対応 課題②地域で安心して過ごすための ケアマネジメント(ケアプランの検討) 演習2:3年間の学びの共有	グループワーク 技術練習
2 3 4 5 6	①ケアマネジメント	地域包括ケアシステムについて考える 模擬患者のアセスメントシートを参考にして 患者が安心して暮らすために必要な 支援・ケアプラン等を検討する	グループワーク 発表 ディスカッション
7 8 9 10 11 12 13	②技術演習	多重課題(割り込み)への対応 事例患者に対する看護援助を考える 実際にベッドサイドで援助を行う 実践の根拠を明確にする 優先順位、看護倫理に配慮する	グループワーク 発表 ディスカッション
14 15	看護体験の共有 まとめ	3年間の講義・演習・実習での学びを共有する 「人道」や「看護観」について考える	グループ ディスカッション

発展科目:看護学の講義・実習すべてにつながっている

テキスト:なし

成績評価:グループワーク:参加度

技術演習:グループ評価、実技看護体験の共有:参加度

これらを合わせて総合評価とする